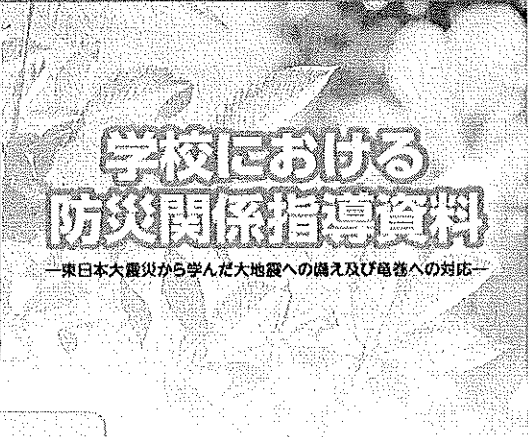
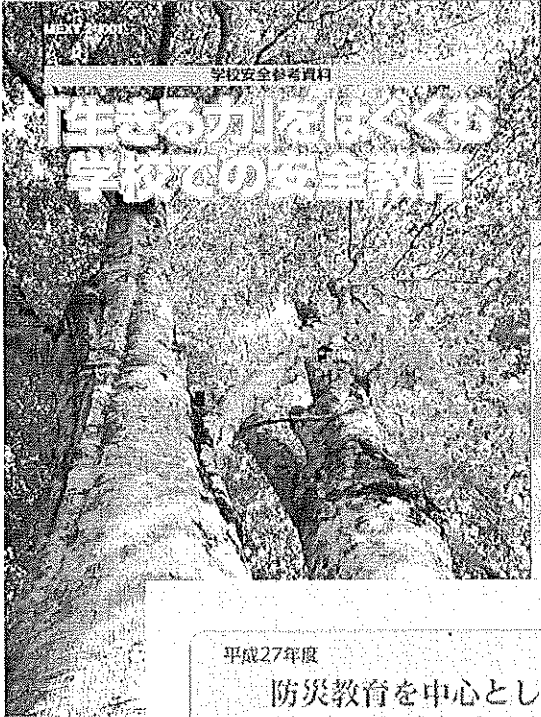


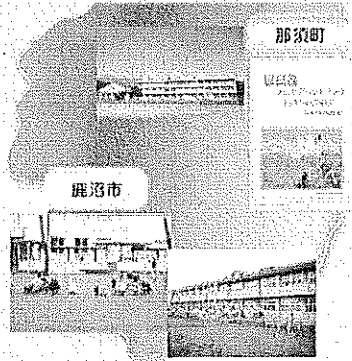
平成28年度安全教育指導者研修会



平成27年度 防災教育を中心とした 実践的安全教育総合支援事業

栃木県は、平成24年度から平成26年度までの3年度、文部科学省からの委託事業として、「実践的安全教育総合支援事業」を実施してまいりました。
平成27年度は、防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業として、栃木県・岩手県において、様々な自然災害の危険にさらされている児童を支援するための「生徒等向け避難訓練指導用教材」を制作し、岩手県各自治体等に配布いたしました。
とりわけ、岩手県で発生した地震の被害が深刻な状況であったため、避難訓練指導用教材を制作し、岩手県各自治体等に配布いたしました。

栃木県教育委員会



期 日：平成28年5月2日（月）
会 場：栃木県総合教育センター

栃木県教育委員会

平成28年度安全教育指導者研修会開催要項

1 趣 旨

学校管理下での事故災害、交通事故、地震等の自然災害及び学校内外での犯罪の被害等により、尊い生命が失われるなど、児童生徒を取り巻く状況は深刻化していることから、研修を通して今後の各学校における安全教育の充実に資する。

2 主 催

栃木県教育委員会

3 期 日

平成28年5月2日(月)

中学校 9:30～12:00(受付 9:00～)

小学校 14:00～16:30(受付 13:30～)

4 会 場

栃木県総合教育センター 大講義室 (宇都宮市瓦谷町1070 TEL028-665-7200)

5 内 容

<中学校>午前

- (1) 9:30～9:40 あいさつ 栃木県教育委員会事務局学校教育課長
- (2) 9:40～10:20 講話Ⅰ 「学校における交通安全対策」
栃木県警察本部交通部交通企画課課長補佐 鬼丸 純一 氏
- (3) 10:20～11:00 講話Ⅱ 「学校における防災対策」
宇都宮地方気象台 地震津波防災官 永田 俊光 氏
- (4) 11:15～11:45 説 明 「学校における安全教育について」
栃木県教育委員会事務局学校教育課担当
- (5) 11:45～12:00 事務連絡

<小学校>午後

- (1) 14:00～14:10 あいさつ 栃木県教育委員会事務局学校教育課長
- (2) 14:10～14:50 講話Ⅰ 「学校における防犯対策」
栃木県警察本部生活安全部生活安全企画課課長補佐 岩崎 泉 氏
- (3) 14:50～15:30 講話Ⅱ 「学校における防災対策」
宇都宮地方気象台 地震津波防災官 永田 俊光 氏
- (4) 15:45～16:15 説 明 「学校における安全教育について」
栃木県教育委員会事務局学校教育課担当
- (5) 16:15～16:30 事務連絡

× 毛

講話Ⅰ 午前「学校における交通安全対策」
午後「学校における防犯対策」

講話Ⅱ 「学校における防災対策」

説明 「学校における安全教育について」

「学校における 安全教育について」

栃木県教育委員会学校教育課
副主幹 伊藤 雅幸

2016/5/2 1

学校が作成する学校安全に係る計画

危険等発生時対処要領(危機管理マニュアル)

学校保健安全法第29条(危険等発生時対処要領)

学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の実情に応じて、**危険等発生時において当該学校の職員がとるべき措置の具体的な内容及び手順を定めた対処要領(次項において「危険等発生時対処要領」という。)**を作成するものとする。

2016/5/2 4

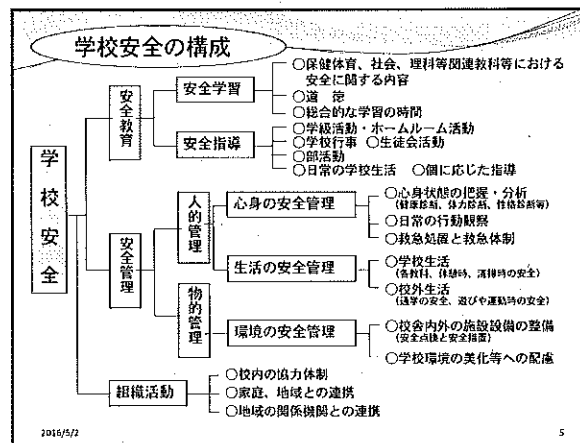
学校が作成する学校安全に係る計画

警備及び防火防災計画

消防法 第8条第1項

学校、病院、工場、事業場、興行場、百貨店(これに準ずるものとして政令で定める大規模な小売店舗を含む。以下同じ。)、複合用途防火対象物(防火対象物で政令で定める二以上の用途に供されるものをいう。以下同じ。)**その他多数の者が出入し、勤務し、又は居住する防火対象物で政令で定めるものの管理について権原を有する者は、政令で定める資格を有する者のうちから防火管理者を定め、当該防火対象物について消防計画の作成、当該消防計画に基づく消火、通報及び避難の訓練の実施、消防の用に供する設備、消防用水又は消火活動上必要な施設の点検及び整備、火気の使用又は取扱いに関する監督、避難又は防火上必要な構造及び設備の維持管理並びに収容人員の管理その他防火管理上必要な業務を行なわなければならない。**

2016/5/2 2



学校が作成する学校安全に係る計画

学校安全計画

学校保健安全法第27条(学校安全計画の策定等)

学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、**当該学校の施設及び設備の安全点検、児童生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。**

2016/5/2 3

学校安全の領域

生活安全	日常生活における事件・事故災害を取り扱う。近年、児童生徒等が犯罪の被害に遭うことも少なくないことから防犯が重要な内容の一つとなっている。
交通安全	さまざまな交通場面における危険と安全について取り扱う。
災害安全	地震、津波、火山活動、風水(雷)害といった自然災害や火災等を取り扱う。原子力災害も含まれる。

2016/5/2 6

安全教育のねらい

- (1) 日常生活における事故災害の現状、原因及び安全な行動について理解を深め、安全に行動できるようにする。
- (2) 日常生活の中にあるさまざまな危険に気づいて、的確な判断の下にこれに対処したり、的確な行動ができるようにする。
- (3) 自他の生命を尊重し、学校や社会に進んで協力し、貢献できるようにする。

2016/5/2 7

各発達段階の特徴

高校生

- 自分らしい生き方を模索
- 冒険心から生まれる危険行動の減少
- 二輪車や自動車の運転に強い興味・関心
- 自分の興味・関心、利害などに傾きがち

2016/5/2 10

各発達段階の特徴

小学生

低学年:しつけを素直に受ける時期。
 実際の場面の中で、具体的な題材を用いて、知識・行動の両側面から実施

中学年:モデルとしての教師、保護者の影響が大きい。
 遊びの多様化、行動範囲の拡大化。
 →「安全マップづくり」などが有効
 (自分達たちの生活空間と関連付けて考える)

高学年:いわゆる「ギャングエイジ」の時期
 仲間の圧力にどう対処して行動するかという指導の重要性

2016/5/2 8

安全教育のあり方

安全学習

安全指導

各教科、領域等

学級活動、学校行事等

朝の会や帰りの会等

↓

それぞれを関連させながら、学校教育全体を通して取り組むことが大切

2016/5/2 11

各発達段階の特徴

中学生

- 子ども扱いへ反発心、大人っぽい行動を顕示
- 理にかなった教育が効果的
- 知識学習を中心とした危険予測の教育のみにとどまらないことが大切
- 仲間の圧力が行動を左右する大きな要因

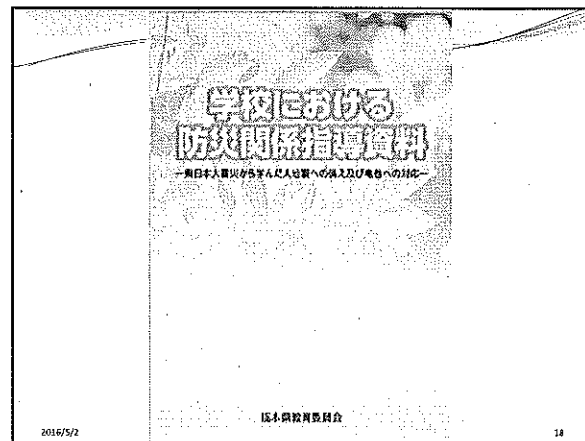
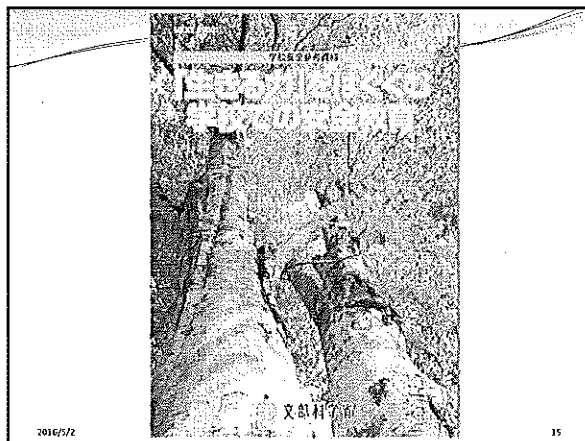
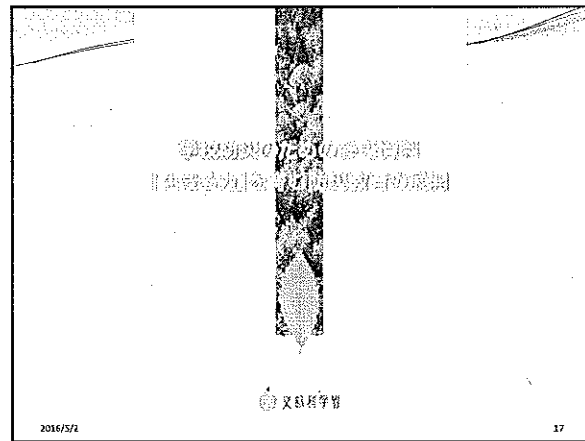
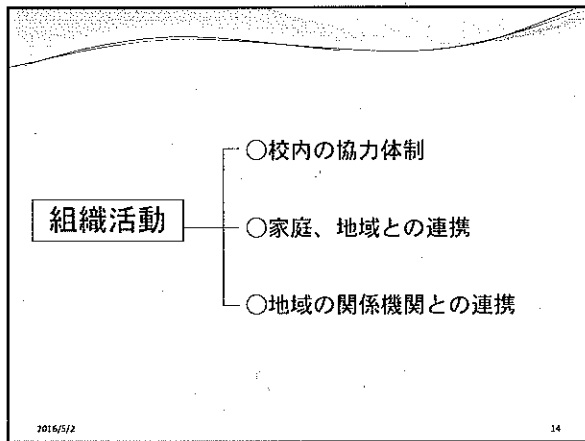
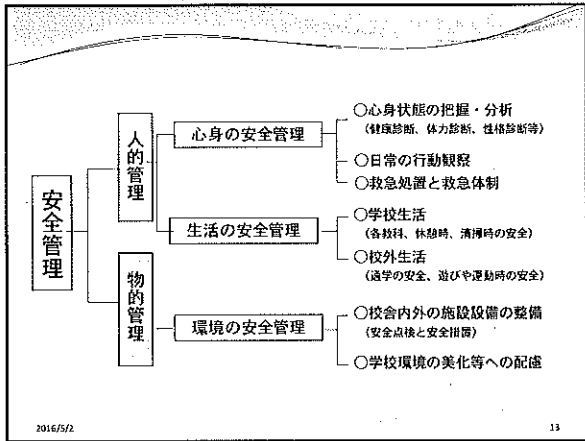
2016/5/2 9

自分の命は自分で守る！

↑

危険予測・危険回避能力を育成する
 安全教育

2016/5/2 12



平成27年度

防災教育を中心とした 実践的安全教育総合支援事業

栃木県は、平成24年度から平成26年度までの3年間、文部科学省からの委託事業として、「実践的防災教育総合支援事業」を実施して参りました。

平成27年度は、「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」として、鹿沼市・那須町において、様々な自然災害の危険に際して自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度の育成」を目的とし、実践的な防災教育の展開について研究しました。

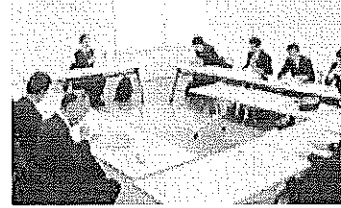
本リーフレットは、各学校が児童生徒の発達段階に応じた防災教育を実施する際に、参考となるよう両市町の取組の成果を紹介するとともに、防災教育プログラムの活用例等を掲載しました。



◆推進委員会

○推進委員

宇都宮大学教育学部長(委員長) / 宇都宮大学地域連携教育研究センター准教授
宇都宮地方気象台 次長 / 宇都宮地方気象台 火山防災官
消防庁防災アドバイザー / 栃木県危機管理課主幹
鹿沼市教育委員会 / 那須町教育委員会
上都賀教育事務所 / 那須教育事務所
事務局：県教育委員会事務局学校教育課



推進委員会

○第1回推進委員会

日時 平成27年7月10日(金) ○安全教育の充実に向けた学校と関係機関等との連携強化
場所 栃木県庁 ○実践校における防災教育の実施計画についての検討・協議

○第2回推進委員会

日時 平成27年11月27日(金) ○緊急地震速報による避難訓練
場所 那須町立那須中学校 ○防災学習・研修会

○第3回推進委員会

日時 平成28年1月20日(水) ○防災教育の実施内容や方法の検証及び、改善策等の検討・協議
場所 栃木県庁 ○事業成果を各学校に普及する方法等の検討・協議

◆鹿沼市実践委員会

○第1回実践委員会(平成27年5月)

鹿沼市立南押原中学校 ○関係機関等との連携強化
○事業概要説明
○防災アドバイザーの講話



○第2回実践委員会(平成27年8月)

鹿沼市立楡木小学校 ○緊急地震速報受信システムを活用した防災教育についての検証
○災害ボランティア体験活動についての検討・協議
○防災教育研修会の在り方についての検討・協議

○第3回実践委員会(平成28年2月)

鹿沼市立南押原中学校 ○本研究の成果と課題の確認
○次年度以降の防災教育の在り方について

◆那須町実践委員会

○第1回実践委員会(平成27年5月)

○第2回実践委員会(平成28年2月)

○実践校における防災教育の実施計画についての検討・協議

○事業の成果と課題及び今後の取組についての検討・協議

○第1回安全指導者研修会(平成27年11月)

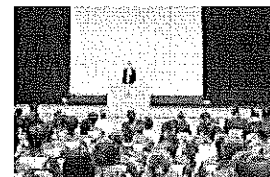
那須町立那須中学校

○第2回安全指導者研修会(平成27年12月)

那須町立黒田原小学校



学校安全担当者への講話



兵庫県立大学木村教授の講演

◆様々な場面を想定した避難訓練の実施（鹿沼市）

◇多様な避難訓練◇

○緊急地震速報を活用した訓練

小中学校3校に緊急地震速報受信システムを導入し、このシステムを使用した避難訓練を各校において3回実施しました。

第1回目の訓練の前には、緊急地震速報を聞いた時の正しい行動について学習しました。

児童生徒は、事前の予告が無くても、警報音とともに自分の身の安全を守る行動が瞬時にとれるようになってきました。

○保護者への引き渡し訓練

学校が隣接している南押原中学校と南押原小学校において、小中合同の保護者への引き渡し訓練を実施しました。

児童生徒の引き渡しが確実にできるよう、町別兄弟一覧を作成したり緊急連絡カードを引き渡しカードとして活用したりしました。

○休み時間や清掃時における避難訓練

地震や竜巻などの自然災害は時を選ばずに襲ってきます。

従来から行われている授業中の避難訓練に加え、休み時間や清掃の時間、帰りの会など様々な場面を想定して訓練を実施し、自分で適切に判断し行動する力の育成を図りました。



事前授業の様子



訓練の様子



小学校へ向かう中学生

◆様々な場面を想定した避難訓練の実施（那須町）

◇多様な避難訓練◇

○緊急地震速報を活用した訓練

学校防災アドバイザーによる防災教室を実施し、地震の仕組みや緊急地震速報の特徴などについて学習しました。児童生徒は、「落ちてこない」、「倒れてこない」、「移動してこない」を合言葉に、自分で安全な場所を瞬時に判断し危険を回避するなど、自分の身を守る方法を身に付けることができました。

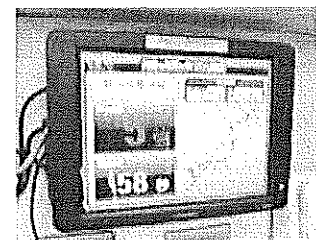
○「ショート訓練」と「ロング訓練」

休み時間や清掃時等を活用し、教室や体育館、廊下の移動中など、様々な場面や状況を想定した訓練を実施しました。児童生徒には訓練の予告をせずに「ショート訓練」や「ロング訓練」を行い、事前に行った学習の定着を図りました。

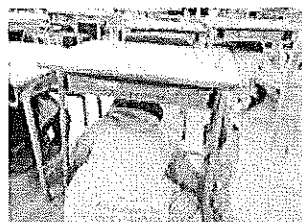
訓練は、**事前学習 → 避難訓練 → 事後学習** の過程を一つのまとまりとして考え、短時間で行う「ショート訓練」でも、自らの行動を振り返る時間を確保したことで、児童生徒はより安全に自分の身を守る方法を考えるようになりました。



安全行動の1-2-3
(The Great Japan Shake Out)



予告なしの訓練



◆学校防災アドバイザー活用（鹿沼市）

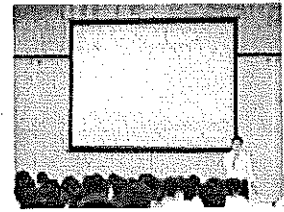
◇竜巻防災教育プログラム◇

○ステップ1「竜巻がなぜ怖いのか、その正体を知ろう」

南押原中学校において、学校防災アドバイザーである宇都宮地方気象台の永田俊光氏を招き、全生徒を対象に「竜巻がなぜ怖いのか、その正体を知ろう」の防災授業を実践しました。

竜巻の特徴や防災について話をいただき「自らの判断で危険を回避できる能力」を身に付けるためには、日頃からの心構えが重要であることを再認識する機会となりました。

各小学校では学級担任が授業を行い、その後、永田氏より助言をいただきました。



授業の様子

○ステップ2「竜巻から自分の身を守る方法を考えよう」

小中学校ともにアドバイザーが作成した指導案や資料を基に授業を行いました。

児童生徒はステップ1の授業を想起しながら、学校生活の様々な場面においての身の守り方を考えることができました。

授業後には、アドバイザーから本時のまとめや次時の訓練を行うに当たっての留意事項についての助言をいただきました。



小学校の授業の様子

○ステップ3「実際に身を守って、自分の行動を振り返ろう」

各学校において、緊急地震速報受信システムを活用した訓練と竜巻に対する避難訓練を交互に3回ずつ、計6回実施しました。

訓練後、児童生徒に対し毎回の訓練の振り返りに加え、竜巻に関するアンケートを実施しました。

訓練の振り返りでは、放送の聞き方や身を守る行動の判断、避難の仕方などについて確認しました。

竜巻に関するアンケートでは、授業や訓練で行ったことが、どの程度定着しているかを確かめるために、竜巻についての知識や避難する際に気を付けることなどをチェックしました。

竜巻の避難訓練では、放送を聞きすぐに身を守る体勢をとる児童生徒と、校舎などの建物の中に避難する児童生徒に分かれました。

この点については、アドバイザーの永田氏から、児童生徒が放送を聞いた時に、竜巻までの距離や到達時間をどのように想定したかによって避難行動の善し悪しが決まるので、振り返りではその点についてもしっかりと確認することが大切であるとの指導を受けました。

どちらの行動が正しいというのではなく、竜巻の状況をどのように想定したのか、その上で、自分の身を守るためにはどうしたらよいのかを判断したのが重要であることを学びました。



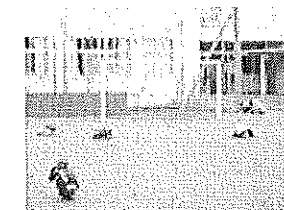
中学校の授業の様子



小学校低学年の振り返りの様子



校舎内に避難する児童



その場ですぐに身を守る児童

学校防災アドバイザー活用 (那須町)

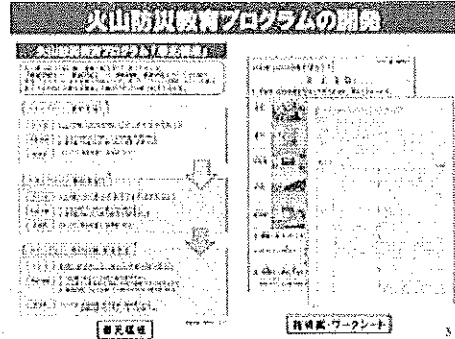
◇ 火山防災教育プログラム ◇

○ステップ1 「火山の噴火がなぜ怖いのか、その正体を知ろう」

- ・火山の特徴及び噴火による被害や影響を知る。
- ・那須岳の特徴及び噴火の被害や影響を知る。

1時限 全体学習

- 火山の特徴及び噴火による被害や影響を知る。
 - ・日本の活火山、噴火の原理・現象、噴火によってもたらされる被害や影響の特徴
- 那須岳の特徴及び噴火の被害や影響を知る。
 - ・自然的要因(活火山)、地理的要因、歴史災害

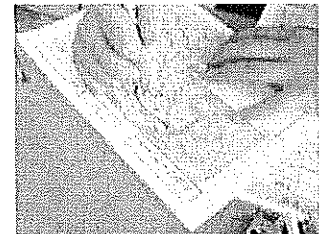


○ステップ2 「火山噴火から自分の身を守る方法を考えよう」

- ・火山が噴火した際の適切な行動を学ぶ。
- ・那須岳が噴火した際の適切な行動を考える。

2時限 クラス学習

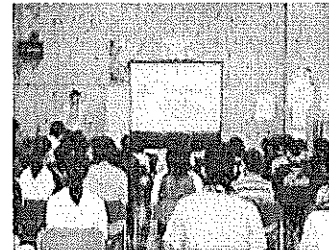
- 白地図を使った学習により、自分の地域における火山の危険性(ハザードマップ)を知る。



白地図を使った学習

- さまざまな場所・場面における、命を守るための具体的な行動を学ぶ。

- ・火山噴火時に必要な対応行動の確認
- ・登山開始前、対応行動の再確認
「ダンゴ虫」「シェイクアウト」

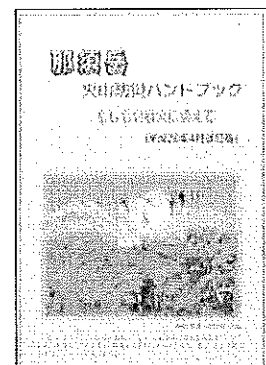


○ステップ3 「実際に身を守って、自分の行動を振り返ろう」

- ・火山噴火時の正しい対応行動を習得させる。
- ・火山噴火の緊急放送を聞いたときの避難方法を習得させる。

休み時間

- さまざまな場所・場面における、命を守るための具体的な行動を身に付ける。(登山に向けて)
- ・実際の登山の際にも、登山の専門家からの指導を受けました。



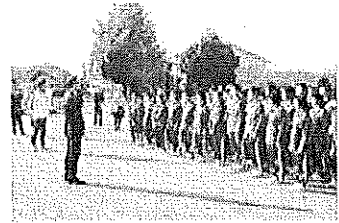
◆小中・地域との連携（鹿沼市）

◇小中の連携◇

南押原中学校と南押原小学校では、被災時の保護者への引き渡し訓練を合同で行いました。

一時避難した中学生は、教師とともに小学校へ向かい、小学生は地区ごとに並んで待機し、中学生の到着を待ちました。中学生は、各地区の小学生の列に入り、兄弟の有無に関わらず、小学生が不安にならないように声かけを行いました。

小学校の職員は、保護者等の引き取り者の確認を行い、随時引き渡しを行いました。



一時避難をした中学生



配膳の準備をする中学生



避難所の様子

◇地域との連携（避難所炊き出し訓練）◇

防災対策を行う上で地域との連携は不可欠です。本市の自治会では自主防災会組織を立ち上げているところもあります。

今回は、小中合同の避難訓練とともに南押原地区磯町自治会の自主防災会の協力を得て、避難所設営および炊き出し訓練を行いました。

中学生はボランティア活動として、 α 化米や豚汁の配膳などを行い被災時に自分たちでできることを考えるよい機会となりました。

◆小中・地域との連携（那須町）

◇小中の連携◇

黒田原中学校区において、黒田原中学校・黒田原小学校・大島小学校・朝日小学校の4校の合同訓練を実施しました。

【当日の流れ】

- ・各学校で対応行動訓練実施
- ・黒田原小学校へ移動し、地域ごとの縦割り班で集合
- ・中学生から災害時の対応について小学生に声かけ
- ・予告なしの対応行動訓練（4校合同）

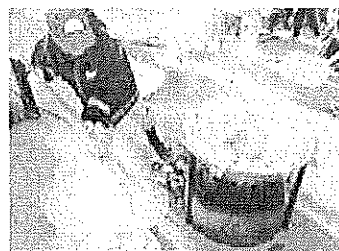


小中合同での縦割り班

◇地域との連携◇

日本赤十字栃木県支部の方々に御協力をいただき、災害救護用「包装食」の炊き出し訓練を実施しました。

地域のスーパーからは、物品の提供もありました。



日本赤十字栃木県支部との連携

◆先進校視察（鹿沼市）

◇南三陸町教育委員会◇

平成23年3月11日（金）の東日本大震災で、甚大な被害を受けた宮城県本吉郡南三陸町教育委員会を訪問しました。

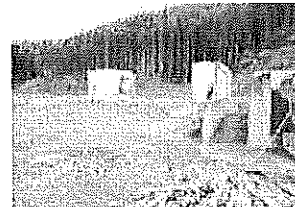
佐藤達朗教育長および佐藤修一教育総務課長より、被災から現在に至るまでの経緯や現在抱えている課題についての説明を受けました。

特に教育委員会として、被災から学校再開までに大変なご苦勞があったことが分かりました。

現在では、児童生徒が抱えた心の傷へのケアが課題となっており、スクールカウンセラー等の活用が不可欠であるとのことでした。



石巻市立大川小学校校舎跡



石巻市立大川小学校体育館跡

◇南三陸町立志津川中学校◇

志津川中学校では、菊地道雄校長をはじめ、小野寺幸博教頭、菊田浩文教諭から被災当時の町や学校、生徒の様子や避難所運営の面での配慮などについての話を伺いました。

被災してからではなく、日頃の心の教育が非日常の場面で生かされるという言葉が印象的でした。

◆那須町火山防災との連携（那須町）

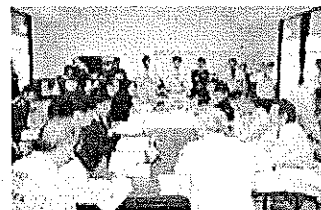
那須岳（茶臼岳）が噴火する恐れが高まったという想定で、関係機関の情報伝達や登山者の避難誘導の手順などを確認する初の実働訓練を実施しました。

地元市町や県、消防、警察などで構成される「那須岳火山防災協議会（会長・高久勝那須町長）」のメンバー約90人が初動対応と心構えを確認しました。

それに合わせて、那須小学校・那須中学校では、臨時集会を開き、児童生徒の地域を確認するとともに避難場所の確認を行いました。

【訓練の想定】

午後1時30分、気象台が「噴火警報（河口付近）」を発表し、噴火レベルが「1」から「2」に上がった。



那須岳火山防災協議会

那須岳火山防災協議会

那須岳火山防災協議会

那須岳火山防災協議会



実働訓練

◆【主な成果と課題】

今年度実施した本事業では、次のような成果や課題が主なものとして挙げられました。県教育委員会としては、今回の成果等について周知するとともに、引き続き、関係機関や有識者等と連携を図り、防災教育の充実に努めて参ります。

【成果】

専門的知見を有する学校防災アドバイザー（宇都宮地方気象台）との連携により、竜巻や火山への対応など、各学校や地域の実情に応じた具体的な防災教育の実践を行うことができた。

【課題】

各学校において、各教科との関連や学校行事等、学校安全計画への位置付けを、より明確にし学校教育活動全体を通して防災教育を推進する必要がある。

防災教育プログラムとは

児童生徒が、正しい知識に基づいて危険を認知し、状況に応じた適切な判断によって、迅速に自分の身を守る行動ができるよう、主体的に行動する態度を学び実践することを学習目的として開発した防災教育用の教材です。

指導案とワークシートが一緒になっており、授業補助教材も揃っているので、防災教育を担当していない先生方でもすぐに使うことができます。各学校や地域の状況にあわせた防災教育の実践に御活用ください。

竜巻防災教育プログラム

鹿沼市

プログラム概要

竜巻が発生しやすい気象現象（前兆現象）や竜巻がもたらす被害・影響等について正しい知識を習得し、竜巻発生を認知した際の適切な判断、迅速な対応行動を身に付けるための「竜巻」を対象とした実践的な防災教育プログラムです。

プログラム構成

プログラムは、単元構成・指導案・ワークシート・授業補助教材・対応行動訓練計画・振り返りシート・効果測定用アンケートで構成され、Word・PowerPoint形式のため自由に修正・複製が可能です。

学習方法

「事前学習1」、「事前学習2」、「実践訓練・事後学習」の3ステップで実践すると効果的です。

■ステップ1「事前学習1」竜巻がなぜ怖いのか、その正体を知ろう

①竜巻自体の特徴及び被害・影響を知る。②竜巻発生に関する情報収集の仕方、予兆の特徴を知る。

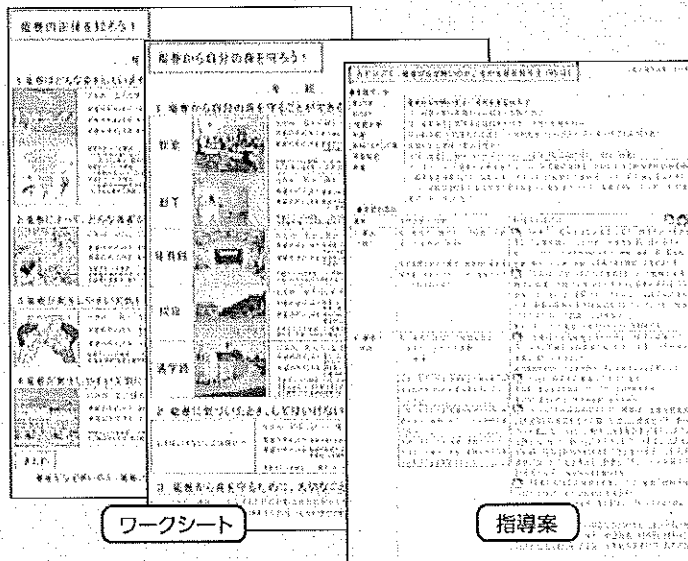
■ステップ2「事前学習2」竜巻から自分の身を守る方法を考えよう

①それぞれの場所での、竜巻からの適正な身の守り方を学ぶ。②地震発生時の身の守り方の類似点に気付く。

■ステップ3「実践訓練・事後学習」実際に身を守って、自分の行動を振り返ろう

①事前学習を生かし、竜巻接近の緊急放送を聞いた時、自分の判断で自分の身を守る対応行動を習得させる。

②実践訓練（ショート訓練※）での自分の行動を振り返る。 ※休み時間や掃除の時間を利用して対応行動のみ行う訓練



ワークシート

指導案

地震防災教育プログラム

鹿沼市

那須町

■ステップ1「事前学習1」緊急地震速報を聞いた時の正しい行動を学ぼう

①緊急地震速報についての基礎的な知識を知る。②地震による物の動き方を知り、緊急地震速報を聞いたときの対応の仕方を考える。③安全な場所への移動のルールを学ぶ。

■ステップ2「事前学習2」緊急地震速報による対応・避難訓練

①緊急地震速報の事前学習を生かし、緊急地震速報を聞いた時に自分の判断で自分の身を守る対応行動・避難行動を習得させる。

■ステップ3「実践訓練・事後学習」緊急地震速報を聞いた時の行動を振り返ろう

①実践訓練（ショート訓練※）での自分の対応を振り返る。②緊急地震速報を聞いた場合の適切な行動を確認する。

③地震時に身を守ることの必要性を学ぶ。 ※休み時間や掃除の時間を利用して対応行動のみ行う訓練

緊急地震速報を利用した避難訓練

火山防災教育プログラム

那須町

開発中

□ステップ1「事前学習1」火山の特徴および噴火による被害・影響を知る。那須岳の特徴及び噴火時の被害・影響を知る。

□ステップ2「事前学習2」火山が噴火した際の適切な行動を学ぶ。那須岳が噴火した際の適切な行動を考える。

□ステップ3「実践訓練・事後学習」火山噴火時の正しい対応行動を習得させる。火山噴火時の避難方法を考える。

プログラムの入手方法

●宇都宮地方気象台ホームページの「防災教育支援ページ」から自由にダウンロードできます。

宇都宮地方気象台 防災教育支援ページ

検索

<http://www.jma-net.go.jp/utsunomiya/index.html>

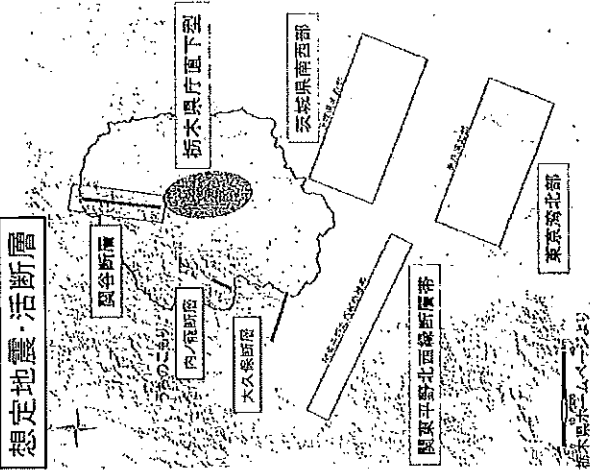
栃木県における防災教育

～主体的に行動する態度の育成～



宇都宮地方気象台 地震津波防災館 永田 俊光

栃木県の活断層と被害想定地震

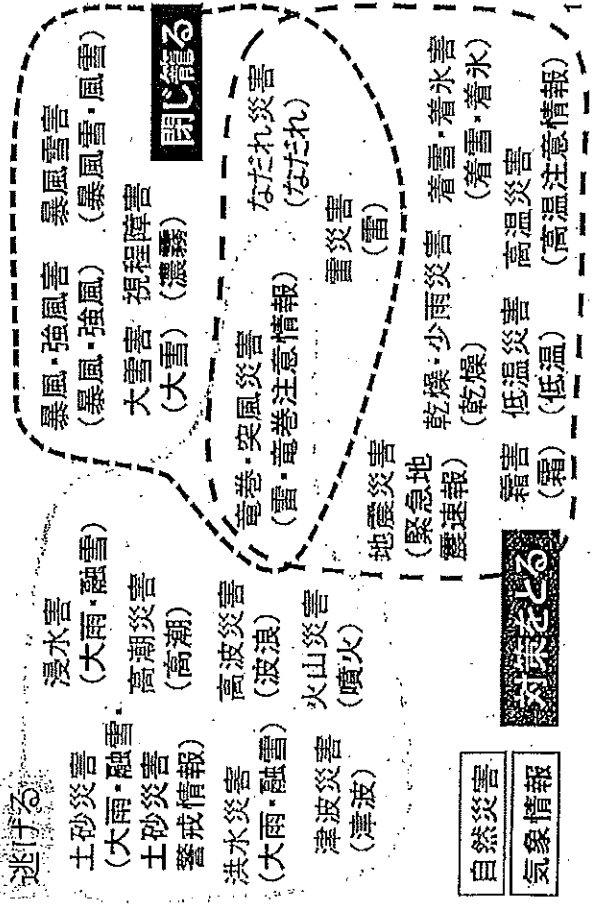


栃木県新設地震

維新低くしつづくる

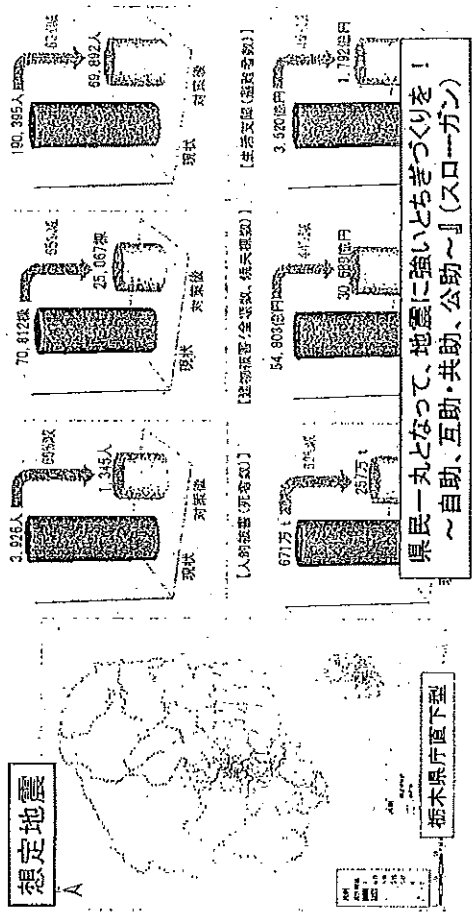
下野新聞

さまざまな自然災害と気象情報



栃木県地震減災行動計画 (H27.3)

【減災目標】 対象期間：平成27年度～36年度



県民一丸となって、地震に強いとちぎづくりを！
～自助・互助・共助・公助～ (スローガン)

取り組むべき減災対策（学校関係）

30 学校安全担当者対象としての防災教育の推進	【基本目標】Ⅱ 人的被害の軽減 【実施の主体】ア 学校別長 【実施の時期】a 防災意識の育成	研修 取組主体 多学年における防災教育の推進を図るため、小・中・高・特別支援学校の学校安全担当者を対象とした防災教育に関する研修を実施する。	平成20年度 2,170人 平成21年度 2,770人 平成22年度 2,770人 平成23年度 3,270人
31 防災教育の推進（各学校における避難訓練の実施）	【基本目標】Ⅱ 人的被害の軽減 【実施の主体】ア 学校別長 【実施の時期】a 防災意識の育成	訓練 知広生全学年に防災教育を実施し安全に学ぶことができるようにするため、各学年において、国体期間と連動した訓練や避難などの訓練など、平時や地域の状況に応じて、様々な場面で実施した避難訓練を実施する。	平成28年度 100% 平成29年度 100% 平成30年度 100% 平成31年度 100%
32 防災教育の推進（各学校における防災意識の育成）	【基本目標】Ⅱ 人的被害の軽減 【実施の主体】ア 学校別長 【実施の時期】a 防災意識の育成	取組主体 知広生全学年に防災教育を実施し安全に学ぶことができるようにするため、各学年において、国体期間と連動した訓練や避難などの訓練など、平時や地域の状況に応じて、様々な場面で実施した避難訓練を実施する。	【目標時期】 各学校における防災意識の育成率 平成28年度 98.5% 平成29年度 100% 平成30年度 100% 平成31年度 100%

熊本県ホームページより

災害の「わがこと意識」を高めるためには

わがこと意識

- ▶ 自分たちに身近なことから、自分たち自身に引き付けて考えること
- ▶ ある事柄について、それが自分たちに直接関係することなくとも、それが自分たちそのものことのように意識すること

現実性

災害事例

実際に何が起きたのか
何が教訓なのか

地域性

地域の災害

自分が住む地域で何が起きたのか
起こるのか

人間性

被災体験

災害が人間・社会にどんな被害・影響を与えたのか

まずは自分が助かること（自助）

ポイント1

- ▶ 自分が助からなければ、人を助けることができない
- ▶ 自分が助からないことで、家族・地域に迷惑をかける

ポイント2

- ▶ 自分が死なない・ケガをしない
 - 家屋倒壊・家具転倒・屋内外でのケガを避ける
- ▶ 自分から行動を起こさなければならぬ
 - 大規模災害時は、すぐに正確・適切な情報はこない。
 - 公助には時間的・人数的限界がある

事前に知って・考えておかなければ、対応できない

正常性バイアス（normalcy bias）

たとえそれが危険な状況であっても、ちよっとした変化ならば、それを「日常のこと」として処理してしまうこと

人間は特に「ゆるやかな変化」に対して反応が鈍くなる！

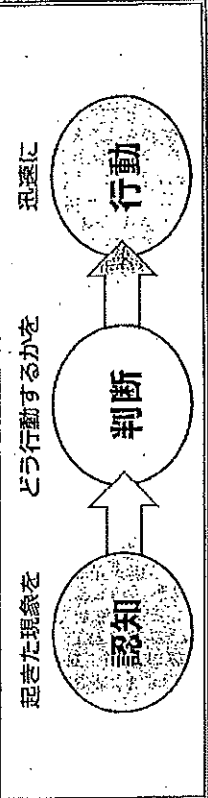


「行動のバリエーション」の考え方

普段は経験しない危機的な場面に遭遇すると
→ 「認知→判断→行動」に時間がかかる

改善

「この状況のときにはこうする」という事前行動計画を作り
→ 認知から行動に至るまでの過程をバリエーション化する



訓練を通して徹底させる → 体に刷り込ませる

避難訓練は児童生徒の防災教育

これまでの避難訓練 → 形骸化

避難までの時間をなぜ計測? → 教科になっていない防災教育

新しい訓練は
“ティロン♪ ティロン♪” (緊急地震速報チャイム音を利用)
自らの判断で
● 落ちてこない ● 倒れて来ない ● 移動してこない
安全な場所に移動する

主体的に行動する態度 → 周りへ呼びかける態度 → 他者を誘導する態度

慌てずに・その場に應じた対応行動がとれたかを評価

安全行動の1-2-3

DROPI!
ドロップ!

まず低く

COVER!
カバー!

頭を守り

HOLD ON!
ホールド・オン!

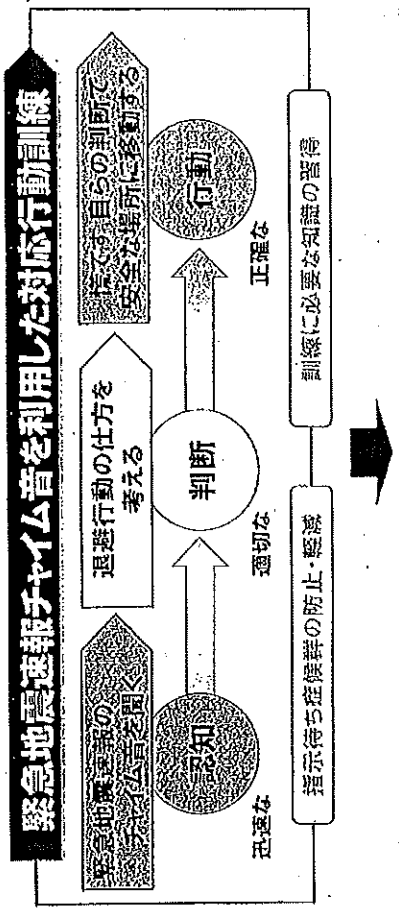
動かない!



その時・あなたははどうしますか?



緊急地震速報を合図に身を守る



主体的な思考力が身に付き・条件反射的に行動できる

従来の“標準型”訓練から“学習型”訓練への移行が必要

なぜ、緊急地震速報を訓練で活用？

地震発生日	発時刻	地震名	マグニチュード	最大震度	学校活動
2016.4.14	21:26	熊本地震	6.5	7	管理下外
2014.11.22	22:08	長野県北部	6.7	6強	管理下外
2013.4.13	5:33	淡路島付近	6.3	6弱	早朝
2011.3.11	14:46	東北地方太平洋沖地震	9.0	7	活動中
2009.8.11	5:07	駿河湾	6.5	6強	夏休み中
2008.7.24	0:26	岩手県沿岸北部	6.8	6強	夜寝
2008.6.14	8:43	岩手・宮城内陸	7.2	6強	土曜日
2007.7.16	10:13	新潟県中越前	6.8	6強	祭の日
20 学校活動中に“たまたま”大地震が起きていなかった					
2004.10.28	17:56	新潟県中越	6.8	7	下校後
2000.10.06	13:30	鳥取県西部	7.3	6強	活動中

児童生徒は日常生活の中で地震(災害)に遭遇してきた

学校に在る時間は意外に短い → 日常生活の中で速報を見聞き

地震(災害)から“自分の身は自分で守る”意識の醸成

“学習型”訓練へ移行・継続するために

訓練に必要な頻度 → 緊急地震速報訓練用プログラム

- 緊急地震速報とは何かを知る
- 自分がいる場所での対応行動が異なることを知る

訓練バリエーション

場面	時間	場所	参加者
場	避難訓練(定期)・ショート訓練(臨時)	引き渡し訓練、一斉下校訓練、学校間・地域と連携した訓練 など	児童生徒・教職員、保護者、地域住民、防災機関(消防・警察等)
	避難訓練(臨時)		
面	授業中、休み時間、給食や掃除の時間、部活動、登下校時	普通教室、特別教室、体育館、廊下 など	教職員のみ、管理職不在時 など
	引き渡し訓練、一斉下校訓練、学校間・地域と連携した訓練 など		
時間	授業中、休み時間、給食や掃除の時間、部活動、登下校時	普通教室、特別教室、体育館、廊下 など	教職員のみ、管理職不在時 など
場所	普通教室、特別教室、体育館、廊下 など	普通教室、特別教室、体育館、廊下 など	教職員のみ、管理職不在時 など
参加者	児童生徒・教職員、保護者、地域住民、防災機関(消防・警察等)	普通教室、特別教室、体育館、廊下 など	教職員のみ、管理職不在時 など

「知識の習得 → 対応行動訓練 → 振り返り → 改善」

緊急地震速報訓練用プログラムの活用

学習指導案

2017年度 第1学期 第10回

45分×2

単元 緊急地震速報

1. 緊急地震速報とは何かを知る

2. 自分がいる場所での対応行動が異なることを知る

3. 緊急地震速報訓練用プログラムを活用する

4. 緊急地震速報訓練用プログラムを活用する

ワークシート

1. 自分がいる場所での対応行動が異なることを知る

2. 自分がいる場所での対応行動が異なることを知る

緊急地震速報を利用した『ショート訓練』

緊急地震速報の訓練用資源の活用

授業の時間

休み時間

教科別の授業

定福の時間

慌てずに、その場に適切な退避行動をとる

訓練の振り返り(退避行動の確認が重要)

短時間かつ簡単に訓練実施が可能(校庭避難無し)

抜打ち訓練の活用により、訓練のマンネリ化を防止

避難訓練がイベント化していませんか？

小学生では

◎訓練に対して真剣に取り組む

→ 訓練の積み重ねで、主体的に行動する態度を身に付ける。

→ 真剣にやっていたのに……

中学生→高校生では

●訓練に対して真剣に取り組めない態度が加速

→ 机の下にもぐらない、お喋りしながら校庭避難など

- 入はまられるのが好き？
- 訓練になんか出ると思っている？
- 体が大きくなって机の下に入れない？
- クラスの雰囲気？
- etc

自分の学校はどう？

子どもたちの問題？

他に原因があるかも？

「自分だけは死なない」という思い込み

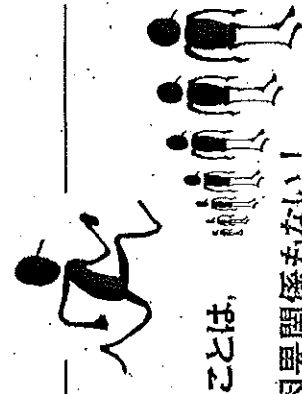
「なんやかんや言われても、今までだって生きてきたのだから、そんなに簡単には死にはしない(死ぬはずもない)」

連続性のワナ (心理学)

「これまで生きてきた」こと、

「この次の瞬間も生きている」ことは、

ただの希望的観測で、何の因果関係もない！



「わがこと意識」で生き抜き危機管理が必要！

訓練を充実させるための課題解決

子ども

成長するほど訓練に対して真剣に取り組めない？ 集団同調性バイアス？

シヨート訓練(縦割り活動中)



小中学校合同訓練

わがこと意識を醸成させる指導により、訓練への取り組み意識が向上

先生の指導

大人

児童生徒だけ訓練に参加し、大人が「参加者になっている」ケースが多い？

抜き打ち訓練(大人含む)



授業参観日の訓練

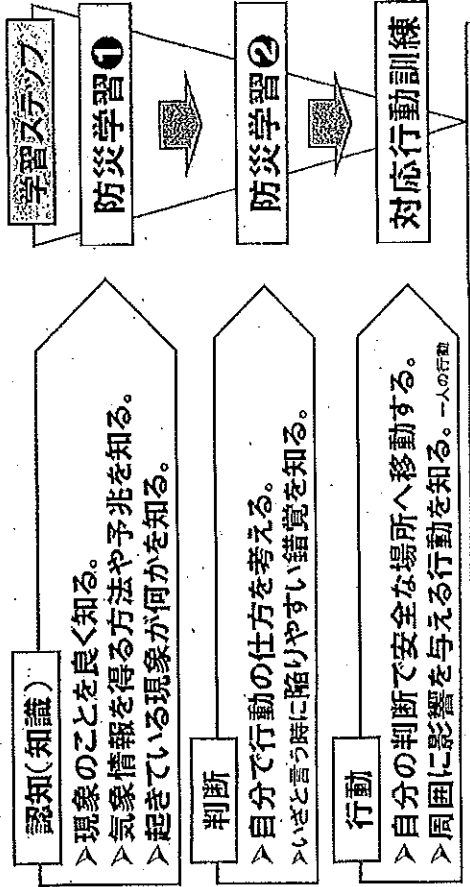
大人も参加する緊張感のある訓練と学校全体で取り組む姿勢

課題を解決することにより

学校全体の防災意識・災害対応能力の向上につながる

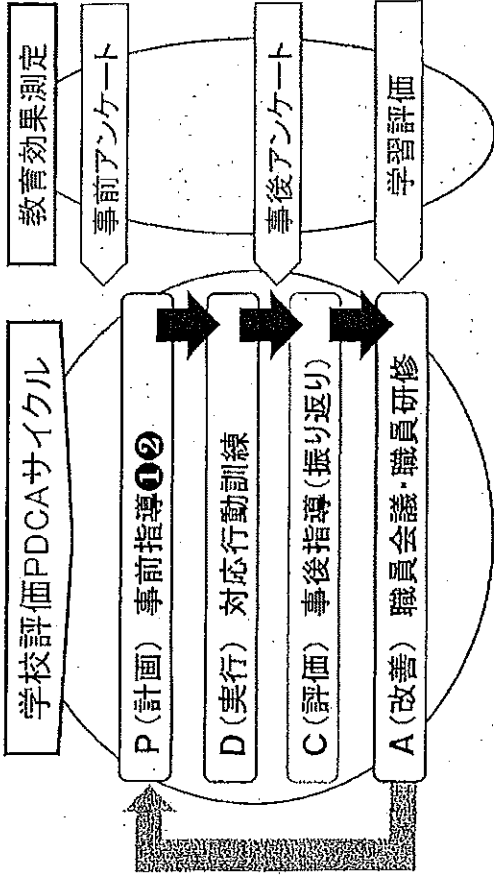
防災教育を推進するための考え方

文科省『主体的に行動する態度を育成する防災教育』



『認知・判断・行動』を3ステップで身につける防災教育

教育効果を高め・継続するためには



Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すにより、学習効果の向上(継続)を図ることができる。

竜巻防災教育プログラムの提供

学習指導案

【学習目標】
1. 竜巻の発生メカニズム、被害の大きさ、発生地域を説明できる。
2. 竜巻発生時の対応行動を説明できる。
3. 竜巻発生時の避難行動を説明できる。
4. 竜巻発生時の安全な行動を説明できる。

【学習内容】
1. 竜巻の発生メカニズム、被害の大きさ、発生地域。
2. 竜巻発生時の対応行動。
3. 竜巻発生時の避難行動。
4. 竜巻発生時の安全な行動。

ワークシート

1. 竜巻から自分の身を守ることはできるか、考えてみよう。

2. 竜巻発生時の対応行動を説明しよう。

3. 竜巻発生時の避難行動を説明しよう。

4. 竜巻発生時の安全な行動を説明しよう。

栃木県・実践的安全教育総合支援事業

防災に関すること

- H27那須町・鹿沼市 / H28那須塩原市・佐野市
- 緊急地震速報を利用した防災教育・訓練の実践
- 竜巻災害を踏まえた防災教育・訓練の実践
- 御嶽山噴火を踏まえた防災教育プログラムの開発

学習目的

ハザードに対する正しい知識・迅速な対応行動の習得

事業目的

自らの危険を予測し、回避する能力を高める防災教育

事業目的

専門家が介入しなくても、学校独自で実践できる防災教育

火山防災教育プログラムの提供

火山ワークシート

1. 火山の種類、特徴、被害の大きさ、発生地域を説明できる。
2. 火山発生時の対応行動を説明できる。
3. 火山発生時の避難行動を説明できる。
4. 火山発生時の安全な行動を説明できる。

児童用ワークシート

1. 火山の種類、特徴、被害の大きさ、発生地域を説明しよう。
2. 火山発生時の対応行動を説明しよう。
3. 火山発生時の避難行動を説明しよう。
4. 火山発生時の安全な行動を説明しよう。

教員用ワークシート

防災教育プログラムの提供

気象台ホームページ

宇都宮地方気象台
http://www.jma-net.go.jp/utsunomiya/index.html

先生によって自校化できるように

自由にダウンロードでき、ファイルの修正・複製が可能

共助の意識を向上させる防災教育

発達段階に応じた体系的・系統的な指導

幼稚園 → 小学校 → 中学校 → 高等学校

「社会に貢献する力」の育成

「自分の命を
守り抜く力」の育成

子ども卒業意識

自分探し

支援活動を組み込んだ避難訓練・災害ボランティア活動

支援者となる視点

安全で安心な社会づくりに貢献する意識の向上

共助の意識を向上させるための取組

シナジーシップ教育の考え

他者から求められる経験 → 他者に対して役にたつ経験
他者のおて先として立つきっかけ
少年は必要とされてはじめて大人になる

中小学校の連携訓練

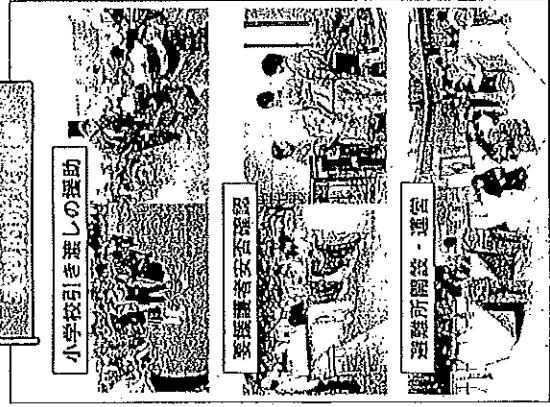
＞学区内の小学校一斉下校の支援
＞学区内の小学校引き渡し支援など

自治会等との連携訓練

＞学区内の要援護者安否確認を支援
＞避難所開設・運営、炊き出し支援など

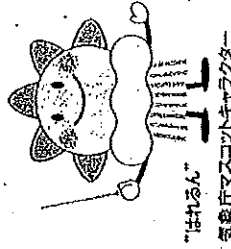
体験学習

＞消火器やAED操作体験
＞簡易担架作成、救命救急の演習など



ご静聴ありがとうございました

- 多言語版
- 新潟県産物の販売、生徒の対応行動の精進をもとにした「生きる力」を高めるための電通防災教育プログラムの提供
- http://www.utsunomiya.go.jp/shien/utsunomiya/1416SSSS_Nagata_v2.pdf
- 県産地産産物を利用した「生きる力」を高める防災教育の取組
- http://www.jma-net.go.jp/satsumasawa/education/pdf/ankkara.pdf
- 防災教育 巻頭教育情報
- http://www.met.kishou.go.jp/radio/common_download_main/olload_iss2722



○ 本件担当 宇都宮地方気象台 地震津波防災官 永田俊光
電話：028-635-7260 nagata@met.kishou.go.jp

